

開講期	2026年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1109 現代思想の地平			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	木曜3限				
教室	H302教室				
代表教員	上野 俊哉				
担当教員	上野 俊哉				
テーマと到達目標	現代思想は何をするのか？ 現代思想は、哲学や文学、文化人類学、芸術、美学、精神分析、神話学、社会学・・・などを横断する学問領域である。多くの研究者が理解できずにいるが、専門の学問があって学際や領域をこえるのではない、はじめから「横断的」「超域的」な思考がある。これをしっかりとつかむ。				
概要	20世紀から21世紀にかけての現代思想を入門的に講義する。フランスとドイツ、英米の現代思想を初歩から、誰にでもわかるように説明する。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	反人間主義の立場から人間を、人文主義を肯定すること				対面授業
第2回	ここにいる「わたし」と、「わたし」を支えるもの(実存と構造)				対面授業
第3回	他者、ジェンダー、セクシュアリティ、身体との出会い				対面授業
第4回	ことばを使うのはわれわれではない、われわれがことばに喋らされている				対面授業
第5回	「わたし」がモノにされると、モノでなくなるとき				対面授業
第6回	ひとがモノを贈るとはどういうことか、モノの交換と構造				対面授業
第7回	「わたし」は「鏡像」から作られる、わたしを支える何かは他者である				対面授業
第8回	「ことば」「イメージ」「リアル」 精神分析と文化人類学の接点				対面授業
第9回	学校と病院と刑務所と軍隊は同じ力によって動いている、フーコー1				対面授業
第10回	「わたし」(自己)を組み立てる倫理と性、フーコー2				対面授業
第11回	ことばと映像、写真、ファッション、ロラン・バルトを読む				対面授業
第12回	ニセモノや見世物(スペクタクル)、模像(シミュラクル)の織りなす社会				対面授業
第13回	ジェンダーもセクシュアリティもパフォーマンスティヴィティである バトラー				対面授業
第14回	街頭にリアルがふってくる、抵抗や叛乱なしに文化も生もない				対面授業
第15回	ことばからモノへの回帰、記号論から実在論の転回へ				対面授業
成績評価の基準	学校ではなく、大学なので出席は一切とらない。出席点が欲しければ、発言すればいい。講義中にふれた著作、論文などを読み、それらの概念や方法を使って、自分で問いを立てて書くこと。2800字以上。自分がなぜそう考えるかを、理由や論拠を他から(人や本、出来事など)例にとって引くことで考えていることを言葉にしてみる。感想のみは不可となる。レポートは「である、だ」調で書くこと。「ですます」調は不可。				
履修にあたっての留意事項	大学での学びにコスバやタイバを求める人には向いていません。学生をお客さまや消費者と思ったことはありません。これからありません。単に学び逸れる大人の一人としてあつかいます。今は活字や本が嫌いでも、これから本を読むことが好きになりたい人に向いています。授業公開の制度には一歳エントリーしない。理由は大学の講義にニセ学生がいるのは当たり前のことだから。和光の教職員は授業公開の制度、仕組みに関わりなく、いつでもわたしの講義を聞いてもらってかまわない。ただし、参加する場合、一声かけていただく。関係性(ラポール)はあらかじめ、そちらからアプローチして築いていただく。				

オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細	
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件	

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書		教科書(ISBN)	
参考文献	膨大にあるので、そのつど紹介する	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>
--------------------	---